

ジャパン・ロボティクス株式ファンド (1年決算型)/(年2回決算型)

**組入上位銘柄について
運用者の注目ポイントをご紹介します!**

「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)／(年2回決算型)」は設定来、ボトムアップリサーチに基づいた銘柄選択と市場動向に配慮したポートフォリオの構築により、変動性の高い日本株式市場の中でも、相対的に堅調なパフォーマンスとなっています。当資料では、当ファンドの組入上位銘柄の注目ポイントについて、当社運用部による解説をご紹介します。

設定来、市場を上回るパフォーマンスを実現

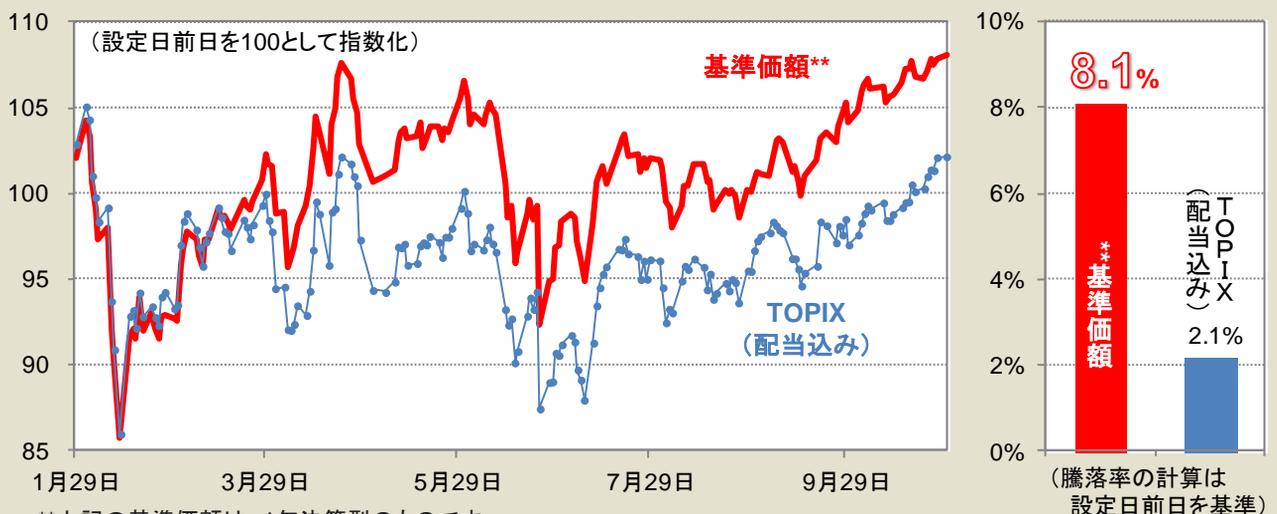
設定来の日本株式市場は、原油安や中国の景気減速懸念などを背景とする世界経済の先行き不透明感、また円高の進行や英国のEU(欧州連合)離脱選択などを受け、変動性の高い相場展開が続きました。しかし9月半ば以降は、原油価格の回復や円安の進行などから回復基調となっています。

そうした中、当ファンドは2016年10月31日時点で、設定来騰落率が+8.1%*と、主要株価指数と比べて好調なパフォーマンスとなりました。

*騰落率は1年決算型の基準価額を用いて計算しています。

【設定来の基準価額**と主要株価指数の推移および騰落率】

(2016年1月29日(設定日)～2016年10月31日)



**上記の基準価額は、1年決算型のものです。

※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。

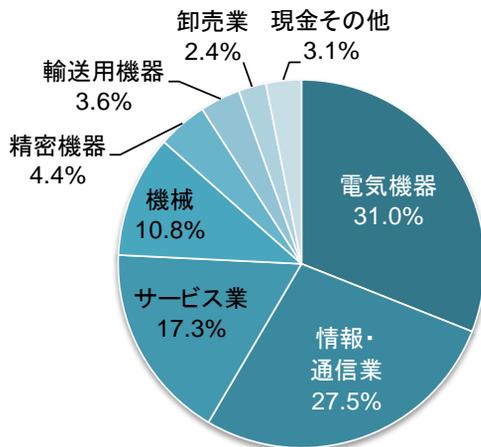
信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

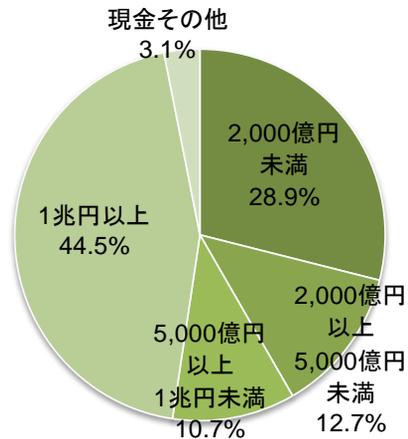
当資料は、投資者の皆様へ「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)／(年2回決算型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオの概要（2016年9月末現在）

業種別構成比



時価総額別構成比



※上記はマザーファンドの状況であり、比率は純資産総額比です。
 ※業種は東証33業種分類にて示しています。
 ※四捨五入の関係で合計が100とならない場合があります。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数 46銘柄)

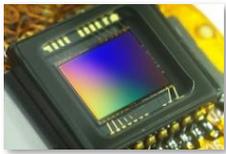
| | 銘柄 | 業種 | 比率 | 当資料で ご紹介する銘柄 |
|----|-------------------|--------|-------|-----------------|
| 1 | キーエンス | 電気機器 | 4.58% | |
| 2 | ソニー | 電気機器 | 3.97% | ★ |
| 3 | 日本システムウェア | 情報・通信業 | 3.44% | ★ |
| 4 | SMC | 機械 | 3.38% | ★ |
| 5 | ディー・エヌ・エー | サービス業 | 3.38% | ★ |
| 6 | ハーモニック・ドライブ・システムズ | 機械 | 3.24% | |
| 7 | シスメックス | 電気機器 | 3.03% | |
| 8 | 日本電産 | 電気機器 | 2.95% | ★ |
| 9 | セコム | サービス業 | 2.88% | |
| 10 | 日本セラミック | 電気機器 | 2.86% | |

※ 上記はマザーファンドの状況であり、比率は純資産総額比です。
 ※ 業種は東証33業種分類にて表示しています。
 ※ 「組入上位10銘柄」は、個別銘柄の取引を推奨するものでも、将来の組入を保証するものでもありません。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)/(年2回決算型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

2016年9月末現在の組入上位銘柄



ソニー

業種: 電気機器 時価総額: 約4.2兆円

Q. ロボティクス分野におけるソニーの強みは？



日本企業が得意とする「認識」の分野で、世界的な存在感を発揮しています

- 日本には、電子機器の分野において、世界的に高い技術力と市場シェアを持つ企業が数多く存在します。ロボティクス技術の領域を「認識」「判断」「実行」に分けた場合、日本企業が特に強みを発揮すると考えられるのは「認識」「実行」の分野です。
- ソニーは「認識」にあたるCMOSイメージセンサー*1市場において世界トップクラスのシェアを有しています。同市場は、近年スマートフォン向け需要の落ち込みを受けて弱含んだものの、今後は回復が予想されています。

Q. CMOSイメージセンサー市場の将来性とは



特に車載用の需要が中長期的に拡大する見込みです

- 同社はこれまで高品質スマートフォン向けを中心に、CMOSイメージセンサーを展開してきました。生産の重要工程をブラックボックス化することで技術の流出を防いでおり、同社製品は高性能・高付加価値商品としての優位性を保っています。
- 同社は今後、自動車やFA*2などの分野におけるセンシング(センサーを用いた認識)領域にも重点を置くとしています。センサー市場では、特に車載用の需要が大きく拡大すると予想されており、成長の牽引役になることが期待されます。

Q. その他にも有望な点がありますか？



ソニーといえば…ゲームです！

- 同社事業のうち、近年はゲーム関連事業の収益が拡大傾向にあります。今年10月にはPlayStation VR*3が世界で同時発売され、大きな話題となっています。2016年はVR元年とも言われ、次々にVR機器が発売されるなか、同社製品は価格やコンテンツに大きな優位性を持っており、他社を大幅に上回る販売が予測されています。
- こうした分野は、映画やテレビなど、同社の別事業との連携も可能であり、ゲーム事業のさらなる成長への期待が高まります。

【株価の推移】

(千円) (2010年1月末～2016年10月末)

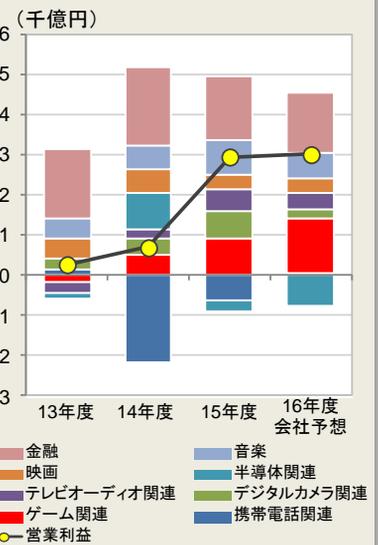


信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

【ロボティクス技術の領域と対応する電子機器分野の例】



【事業別営業利益の推移】 (2013年度～2016年度予想)



*1 映像を電気信号に変換する半導体
*2 ファクトリーオートメーション、工場自動化
*3 バーチャルリアリティ、仮想現実

各社決算資料などをもとに日興アセットマネジメントが作成 ※時価総額は2016年10月末時点

上記は、情報提供を目的として、2016年9月末時点の当ファンドのマザーファンドの組入上位銘柄について、日興アセットマネジメントがまとめたものです。記載の銘柄について、組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、上記は過去のものであり、記載銘柄の将来の価格の上昇や、運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)/(年2回決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

2016年9月末現在の組入上位銘柄

日本システムウェア

業種: 情報・通信業 時価総額: 約242億円

【株価の推移】

(百円) (2010年1月末～2016年10月末)



信頼できると判断したデータをもとに
日興アセットマネジメントが作成

*モノのインターネット

Q. 日本システムウェアの事業の特徴とは？

フルラインの事業展開を活かしたIoT*サービスの進展が期待されます

- 日本システムウェアは、事業規模は小さいものの、ITのコンサルティングやシステムの運用・保守といった「ITソリューション業務」に加え、組込ソフトやLSI(大規模集積回路)の開発などの「プロダクトソリューション業務」まで、幅広い事業展開を行なっています。同社はこうしたフルラインの事業展開を強みとして、様々なノウハウを融合させたIoTサービスを新たな収益の柱にする取り組みを行なっています。

Q. 同社のIoTサービスについて詳しく教えてください

「Toami」が新たな成長ドライバーになると期待されます

- 同社は2013年から、IoTサービスの開発基盤である「Toami」を提供しています。Toamiは幅広い技術に支えられたトータルサービスで、導入スピードが短いことやコスト面の優位性、またNTTドコモが販売を行なっていることなどから普及が進んでおり、今後同社の成長ドライバーになることが期待されます。
- 導入先にはさまざまな企業が名を連ねます。ノーリツの業務用給湯器の事例では、24時間の遠隔監視システムにより、不具合が発生した際にはNTTドコモの回線を介してエラー情報を通知、必要に応じて修理手配の連絡が自動で行なわれるシステムを構築しています。
- 他にも同社のIoT技術を活用した「スマートゴミ箱」の実証実験が、今年6月からハウステンボスで開始されました。これはゴミの回収ルートを最適化するため、ゴミ箱にセンサーや通信機器を搭載したものであり、既に海外では導入が進んでいるサービスです。今後もテーマパークや鉄道会社、自治体などで広く普及することが期待されます。

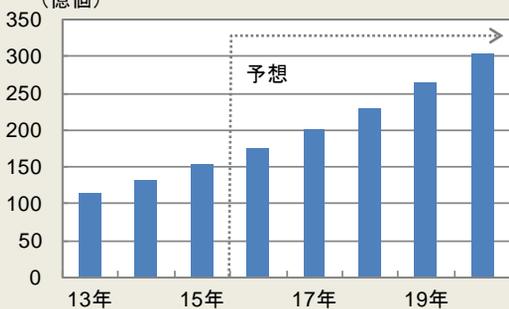
Q. IoT市場における同社の収益機会とは？

中小企業や地方自治体などのIoT市場でシェアを伸ばすと考えられます

- IoT市場は将来、非常に大きなものになると予想されており、プロジェクトの規模ごとにサービスを提供する企業は細分化していくと考えられます。
- 橋梁やトンネルの監視など、大型の官公需要が拡大する一方で、中堅・中小企業や地方自治体におけるIoTニーズも高まるものと予測され、そうした分野で同社のIoTサービスはシェアを伸ばしていくものと考えられます。

【インターネットにつながるモノの数の推移】

(億個) (2013年～2020年予想)



出所: IHS Technology

各社決算資料などをもとに日興アセットマネジメントが作成 ※時価総額は2016年10月末時点

上記は、情報提供を目的として、2016年9月末時点の当ファンドのマザーファンドの組入上位銘柄について、日興アセットマネジメントがまとめたものです。記載の銘柄について、組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、**上記は過去のものおよび予想であり、記載銘柄の将来の価格の上昇や、運用成果などを約束するものではありません。**

当資料は、投資者の皆様へ「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)/(年2回決算型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

2016年9月末現在の組入上位銘柄



SMC

業種：機械 時価総額：約2.0兆円

【株価の推移】

(万円) (2010年1月末～2016年10月末)



信頼できると判断したデータをもとに
日興アセットマネジメントが作成

Q. SMCとは、どんな会社でしょうか？



広範な分野で使用される
「空気圧制御機器」の世界最大手です

- 機械・装置や工場の生産ラインなどに使用される空気圧制御機器の製造・販売を行なっています。空気圧制御とは、空気を動力源として機器を動作させる技術です。取扱いが簡便で、低コストなため、初期のFA化などに幅広く使用されます。需要の裾野は広く、あらゆる産業で使用されますが、油圧機器に比べてクリーン度が高いため、半導体や精密機器、食品、医療などの分野では優先的に活用されています。

Q. ビジネスモデルの特徴は？



市場シェアのさらなる拡大に向けた
「不況時の投資」などが特徴です

- 空気圧制御機器市場における同社のシェアは、34%(2015年度、同社試算)と世界1位を誇り、高いシェアが高い利益率をもたらしています。更なる成長のため、同社は不況時にこそ積極的な投資を行ない、土地や設備、人材などを強化する戦略を実行しています。
- 同社は世界各国でユーザーのニーズを素早かつ確に捉え、多くの製品を開発してきました。そのため製品の数は70万品目に及び、豊富な在庫を抱えることで高品質な製品を低価格かつ短時間で大量に納品できるという強みがあります。

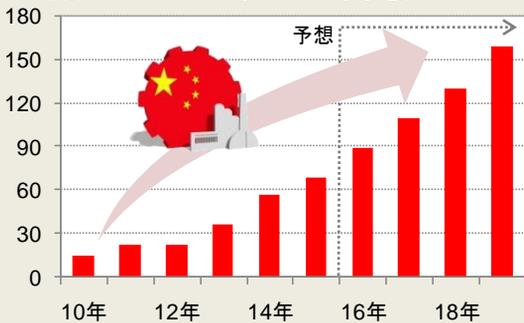
【売上高および営業利益率の推移】

(千億円) (2005年度～2015年度) (%)



【中国の産業用ロボット需要】

(千台) (2010年～2019年予想)



出所：IFR and national robot associations

Q. 今後の注目点を教えてください



人件費高騰による自動化だけでなく、
高付加価値化のニーズが注目されます

- 中国では政府のサポートもあり、工場の自動化投資が拡大傾向にあります。背景には人件費の高騰だけでなく、高付加価値製品への対応の本格化があります。
- 高付加価値化のニーズは、先進国のみならず、新興国経済の高度化に伴って拡大するとみられ、クリーン度の高い空気圧制御機器を活用した自動化への投資は、引き続き活発な状況が続くと考えられます。

各社決算資料などをもとに日興アセットマネジメントが作成 ※時価総額は2016年10月末時点

上記は、情報提供を目的として、2016年9月末時点の当ファンドのマザーファンドの組入上位銘柄について、日興アセットマネジメントがまとめたものです。記載の銘柄について、組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、**上記は過去のものおよび予想であり、記載銘柄の将来の価格の上昇や、運用成果などを約束するものではありません。**

当資料は、投資者の皆様へ「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)/(年2回決算型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

2016年9月末現在の組入上位銘柄



ディー・エヌ・エー

業種: サービス業 時価総額: 約5,097億円

Q. ディー・エヌ・エーの強みとは何ですか？



**豊富なビッグデータと
圧倒的なインターネットサービスの運用力です**

- ディー・エヌ・エーは、インターネット上でショッピングサイトの運営や、ゲーム、コミュニティサービスの提供などを行ない、2006年からソーシャルゲームプラットフォームである「モバゲー」を運営しています。10年以上にわたって蓄積されたビッグデータを活用したビジネスの展開力やインターネットサービスの運用力、また高いマネタイズ(収益事業化)力などにおいて、同社は圧倒的な優位性を有しています。さらにインターネットサービスの高い運用力を活かし、様々な業界のパートナーとの協業にも力を入れています。

Q. 他社との提携で同社が選ばれるのはなぜですか？



**圧倒的なビジネスの展開力が、
極めて高い評価を獲得しています**

- 同社の強みは、協業先のニーズや制約の中で最適なビジネスモデルを立案し、マネタイズできることであり、こうした運用力はインターネットサービス事業への進出をめざす多くの企業から極めて高い評価を得ています。近年は任天堂やヤマト運輸などの大企業が、同社との協業を進めています。

Q. ロボティクス分野ではどのような協業がありますか？



自動運転関連を中心に、様々な取り組みを行なっています。

- 2015年5月には、ロボット開発ベンチャー企業ZMP社との合弁で、「ロボットタクシー」社を設立し、自動運転技術を活用した無人タクシーの開発を行なっています。既に神奈川県内での公道試験を終え、年内にも東京都内で公道試験が実施される予定です。ロボットタクシーは2020年の実用化を目指しており、東京オリンピック・パラリンピックにおける人々の足としての活躍が期待されています。
- 2017年には、ディー・エヌ・エーの自動運転関連のノウハウと、ヤマト運輸の物流ネットワークを組み合わせ「ロボネコヤマト」の実験がスタートする予定です。顧客の希望する時間や場所で荷物が受け取れる「オンデマンド配送サービス」と「買い物代行サービス」の2種類の実験が予定されており、自動運転を活用した次世代物流サービスの早期実用化が待たれます。
- 同社は他にも無人運転バスの試験運行も開始しており、こうした自動運転分野を長期的な主力事業の一つに育てるべく、様々な取り組みを行なっています。

【株価の推移】

(千円) (2010年1月末～2016年10月末)



信頼できると判断したデータをもとに
日興アセットマネジメントが作成

【EPS(1株当たり利益)の推移】

(円) (2013年～2020年予想)



信頼できると判断したデータをもとに
日興アセットマネジメントが作成

各社決算資料などをもとに日興アセットマネジメントが作成 ※時価総額は2016年10月末時点

上記は、情報提供を目的として、2016年9月末時点の当ファンドのマザーファンドの組入上位銘柄について、日興アセットマネジメントがまとめたものです。記載の銘柄について、組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、**上記は過去のものおよび予想であり、記載銘柄の将来の価格の上昇や、運用成果などを約束するものではありません。**

当資料は、投資者の皆様へ「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)/(年2回決算型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

2016年9月末現在の組入上位銘柄



日本電産

業種: 電気機器 時価総額: 約3.0兆円

【株価の推移】

(千円) (2010年1月末～2016年10月末)



信頼できると判断したデータをもとに
日興アセットマネジメントが作成

Q. 日本電産とはどんな会社ですか？



世界屈指のモーターメーカーであり、円高にも関わらず好調な業績をあげています

- 日本電産は、ソニーのページでご説明した3つのロボティクス技術のうち、「実行」にあたるモーターの総合メーカーです。ハードディスク用モーターの世界シェア80%をはじめ、多岐にわたる製品で世界No.1のシェアを獲得しています(同社公表値)。積極的なM&Aによって事業を拡大しており、近年はIoTやサービスロボット、VRなどの新分野にも進出しています。円高環境にも関わらず、足元で営業利益は過去最高を更新するなど、好調な業績をあげています。

Q. M&Aにはどのような効果があるのですか？



グローバル化と新事業の創出を実現しています

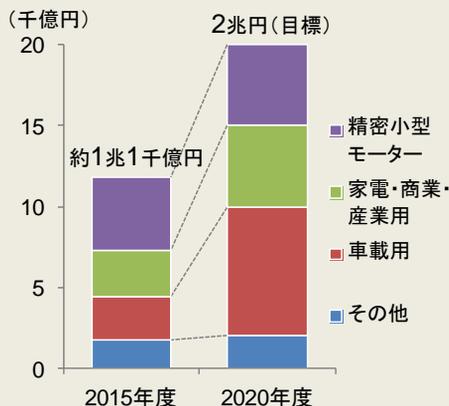
- 同社は自律的な成長に加え、M&Aを重要な経営戦略と位置付けており、1983年に米国企業を買収して以来、同社が買収した企業は国内外を合わせて50社程度にも及びます。
- 同社はM&Aによって新事業を創出しており、自社の技術と買収先の技術を組み合わせた相乗効果によって、車載用や家電用、ロボティクスなどの新たな市場へと事業を展開しています。足元では、これまで買収した海外子会社の業績改善が本格化しており、中期的な安定成長が期待されます。

【売上高および営業利益の推移】

(千億円) (2005年度～2015年度) (百億円)



【事業別の売上高目標】



Q. モーター分野での有望事業は？



車載部品市場などが急激な拡大を遂げています

- 同社は、主力事業である精密小型モーター市場の成熟化に伴ない、新たに「車載用」と「家電・商業・産業用」を重点成長事業に位置付けています。自動車の省エネ化・高付加価値化によって、車載部品市場は近年急激な拡大を遂げています。
- さらに自動運転技術の進展が追い風となり、電動パワーステアリングや次世代ブレーキ用モーターなどの新しい市場でも、同社は世界No.1企業の存在感を発揮しています。そうしたことから、同社の重点成長事業は、近年想定を上回るペースで売上を伸ばしています。

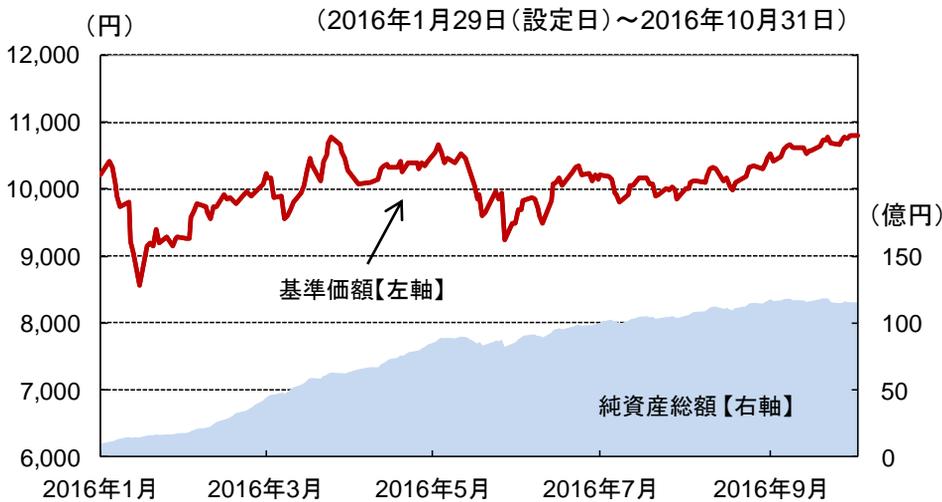
各社決算資料などをもとに日興アセットマネジメントが作成 ※時価総額は2016年10月末時点

上記は、情報提供を目的として、2016年9月末時点の当ファンドのマザーファンドの組入上位銘柄について、日興アセットマネジメントがまとめたものです。記載の銘柄について、組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、上記は過去のものであり、記載銘柄の将来の価格の上昇や、運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)/(年2回決算型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

基準価額と純資産総額の推移

1年決算型



(2016年10月31日現在)

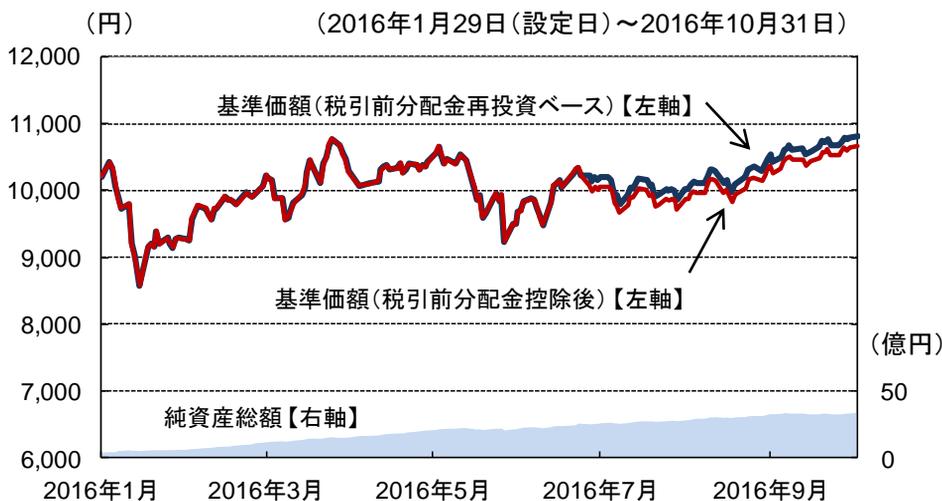
基準価額

10,809 円

純資産総額

114.99 億円

年2回決算型



(2016年10月31日現在)

基準価額

(税引前分配金再投資ベース)

10,814 円

基準価額

(税引前分配金控除後)

10,655 円

純資産総額

33.56 億円

<分配金実績>
(1万口当たり、税引前)

2016年7月

150 円

- ※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
- ※ 税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上のものご留意ください。
- ※ 分配金額は収益配分方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)/(年2回決算型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

- 特色 1** 日本の株式の中から、主にロボティクス関連企業の株式に投資を行ないます。
- 特色 2** 銘柄選定は、日興アセットマネジメントが徹底した調査に基づいて行ないます。
- 特色 3** (1年決算型) 年1回、決算を行ないます。
(年2回決算型) 年2回、決算を行ないます。基準価額水準が1万円(1万口当たり)を超えている場合には、分配対象額の範囲内で積極的に分配を行ないます。

※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。

※ 市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

●リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。(詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【有価証券の貸付などにおけるリスク】

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

●その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様へ「ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)／(年2回決算型)」へのご理解を高めることを目的として日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様へ帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

●お申込メモ

| | |
|------------|---|
| 商品分類 | 追加型投信／国内／株式 |
| ご購入単位 | 購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。 |
| ご購入価額 | 購入申込受付日の基準価額 |
| 信託期間 | 2026年1月26日まで(2016年1月29日設定) |
| 決算日 | 【1年決算型】毎年1月24日(休業日の場合は翌営業日) 【年2回決算型】毎年1月24日、7月24日(休業日の場合は翌営業日) |
| ご換金代金のお支払い | 原則として、換金請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。 |

●手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

| | |
|---------|--|
| 購入時手数料 | 購入時手数料率(スイッチングの際の購入時手数料率を含みます。)は、 <u>3.24%(税抜3%)</u> を上限として販売会社が定める率とします。 ※ 分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。 |
| 換金手数料 | ありません。 |
| 信託財産留保額 | ありません。 |

※ 販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングが行なえない場合があります。
詳しくは販売会社にお問い合わせください。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

| | |
|-------|---|
| 信託報酬 | 純資産総額に対して年率 <u>1.674%(税抜1.55%)</u> を乗じて得た額 |
| その他費用 | 目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息、立替金の利息および貸付有価証券関連報酬(有価証券の貸付を行なった場合は、信託財産の収益となる品賃料に0.54(税抜0.5)を乗じて得た額)などについては、その都度、信託財産から支払われます。 ※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。 |

※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

●委託会社、その他関係法人

| | |
|------|---|
| 委託会社 | 日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会 |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社) |
| 販売会社 | 販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]http://www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。) |

●投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

ジャパン・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)

| 金融商品取引業者等の名称 | | 登録番号 | 加入協会 | | | |
|---------------|----------|------------------|---------|---------------------|--------------------|------------------------|
| | | | 日本証券業協会 | 一般社団法人 日本投資顧問業協会 | 一般社団法人 金先物取引業協会 | 一般社団法人第二種 金融商品取引業協会 |
| 岩井コスモ証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第15号 | ○ | | ○ | |
| エース証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第6号 | ○ | | | |
| SMBC日興証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第2251号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社SBI証券 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第44号 | ○ | | ○ | ○ |
| 岡地証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 東海財務局長(金商)第5号 | ○ | | | |
| 香川証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 四国財務局長(金商)第3号 | ○ | | | |
| カブドットコム証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第61号 | ○ | | ○ | |
| 極東証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第65号 | ○ | | | ○ |
| ぐんぎん証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第2938号 | ○ | | | |
| 株式会社群馬銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第46号 | ○ | | ○ | |
| 株式会社証券ジャパン | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第170号 | ○ | | | |
| 株式会社第三銀行 | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第16号 | ○ | | | |
| 第四証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第128号 | ○ | | | |
| 高木証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第20号 | ○ | | | |
| 株式会社南都銀行 | 登録金融機関 | 近畿財務局長(登金)第15号 | ○ | | | |
| マネックス証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第165号 | ○ | ○ | ○ | |
| 株式会社山梨中央銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第41号 | ○ | | | |
| 楽天証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第195号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ワイエム証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 中国財務局長(金商)第8号 | ○ | | | |

ジャパン・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)

| 金融商品取引業者等の名称 | | 登録番号 | 加入協会 | | | |
|---------------|----------|------------------|---------|---------------------|--------------------|------------------------|
| | | | 日本証券業協会 | 一般社団法人 日本投資顧問業協会 | 一般社団法人 金先物取引業協会 | 一般社団法人第二種 金融商品取引業協会 |
| 岩井コスモ証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第15号 | ○ | | ○ | |
| エース証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第6号 | ○ | | | |
| SMBC日興証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第2251号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社SBI証券 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第44号 | ○ | | ○ | ○ |
| 株式会社大分銀行 | 登録金融機関 | 九州財務局長(登金)第1号 | ○ | | | |
| 岡地証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 東海財務局長(金商)第5号 | ○ | | | |
| 株式会社神奈川銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第55号 | ○ | | | |
| カブドットコム証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第61号 | ○ | | ○ | |
| 株式会社証券ジャパン | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第170号 | ○ | | | |
| 株式会社第三銀行 | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第16号 | ○ | | | |
| 第四証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第128号 | ○ | | | |
| 高木証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第20号 | ○ | | | |
| 株式会社南都銀行 | 登録金融機関 | 近畿財務局長(登金)第15号 | ○ | | | |
| マネックス証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第165号 | ○ | ○ | ○ | |
| 楽天証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第195号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ワイエム証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 中国財務局長(金商)第8号 | ○ | | | |

(資料作成日現在、50音順)

当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。